



SDM ニュース

SDM NEWS



ALPS2010参加者集合写真

2010年 月号

12

行事予定

2010年度第Ⅲ期入学試験 日程
(2011年4月または2011年9月入学志望者対象)

Webエントリー期間

2011年1月6日(木)~1月17日(月)

出願期間

2011年1月12日(水)~1月17日(月)

1次選考合格発表

2011年1月28日(金) 午後1時

2次選考

2011年2月5日(土)・2月6日(日)

2次選考合格発表

2011年2月8日(火) 午後1時

<http://www.sdm.keio.ac.jp/admission/index.html>

研究所長兼研究科委員長からのごあいさつ

2010年は、国内外で巨大複雑システムに関わる事件が多発した年と言っても過言ではないでしょう。新年早々からUAEへの原子力発電所売込みを韓国に出し抜かれ、近々ではTPP、FTA参加をめぐる迷走、露大統領の北方領土訪問、東シナ海における漁船衝突事件、朝鮮半島における砲撃事件、そして、WikiLeaksによる米国公文書公表事件など、グローバル化によって直面せざるを得ない状況が顕在化した歴史に残る年になると思われます。一方、国内に目を向けると、若年層の就職問題や活力の全般的な低下が目立ち始め、2050年にはエマージング諸国に抜き去られるという予測すら生まれています(ロンドンのエコノミスト誌が11月20日号に掲載)。SDM研究科が主張する、グローバルな観点からシステムのライフサイクル全般にわたって、デザインシマネジメントするという基本的なアプローチが今こそ求められています。本研究科は、多くの海外の大学との連携を強化し、国際化に対応しうる人材の育成に力を入れておりますので、来年も、より一層のご支援を賜りますよう、教員一同心よりお願い申し上げます。



SDM研究所長兼SDM研究科委員長 狼 嘉彰

最近のニュース

1 フジサンケイ ビジネスアイに手嶋教授の特別講座の記事が掲載



2010年9月29日(水)、手嶋龍一教授がフジサンケイ ビジネスアイ主催の、社会人のための特別講座「知の最前線」で講座「インテリジェンスの賢者たちとの対話—21世紀のいまを読み解く」を行った。

講座の内容は、10月21日(木)のビジネスアイに掲載された。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/11/08-110259.html>

手嶋龍一教授

2 グローバルCOEプログラム「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」の記事が新聞に掲載



慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科と理工学研究科が母体となって教育・研究活動を行なっている、文部科学省グローバルCOEプログラム「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」の記事が2010年11月8日付けの日本経済新聞および日経産業新聞に掲載された。SDM研究科博士課程1年の野中朋美君が対談に登場している。

グローバルCOEプログラム「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/11/12-101129.html>

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ja/event/201012/201012_index.html

通算25号 2010年12月発行



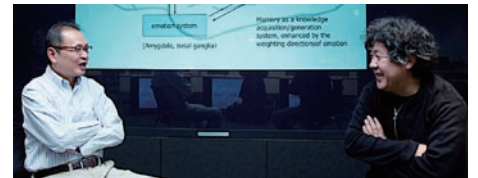
TOPIC 3 茂木特別研究教授 特別講義



茂木健一郎特別研究教授

2010年11月5日(金)、SDMの授業科目「システムの科学と哲学2」(担当:前野隆司教授)において、茂木健一郎特別研究教授により、脳の記憶と学習についての特別講義が行われた。

サヴァン症候群などの様々な事例紹介が行われたうえ、記憶と創造性の関係にも言及され、有意義な特別講義であった。



前野隆司教授(左)と茂木健一郎特別研究教授

TOPIC 4 事業継続計画(BCP)に関する先端研究所の見学会を実施



篠原主任研究員から説明を受ける見学者たち

社会中枢システムラボの金融勉強会は2010年11月10日午前、株式会社インターリスク総研の見学会を実施した。同総研は、災害やテロ発生時にも政府や企業が事業継続できるシステムを構築する「事業継続計画(BCP)」の分

野で日本最先端の開発拠点のひとつ。同総研本社で開かれた見学会には、金融勉強会メンバーを中心にSDMの学生・教員8名が参加した。

当日は、BCPの世界的権威である篠原雅道・主任研究員から2時間にわたり説明を受け、その後質疑応答に移行した。

この見学会での議論を通じて、BCPがいまや事業継続マネジメントシステム(BCMS)の概念に進化しておりSDMの研究内容と親和性が高いこと、さらに、BCMSの認証機関が世界に広がりISOなどの国際規格にも取り上げられつつある局面にも関わらず、日本政府・企

業のBCMSへの認識は十分とは言えないこと、などの現状が浮き彫りになった。この日の参加者の中にはBCPをSDMでの研究課題としている者も多く、熱心にメモを取りながら見学を行っていた。



見学会後の記念撮影

TOPIC 5 保井俊之教授の寄稿が日本経済新聞に掲載



保井俊之教授の米中関係へのシステムズ・アプローチに関する寄稿が、2010年11月19日付の日本経済新聞朝刊「経済教室」欄に掲載された。

出典は右記のとおり。

保井俊之教授

- 媒体名称:日本経済新聞
 - 発行時期:2010年11月19日
 - 発行:日本経済新聞社
 - 掲載場所:2010年11月19日 日本経済新聞本紙朝刊25面「経済教室」
- ※著作権に関しては先方の許可を得ています。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/11/22-174357.html>

TOPIC 6 Movie in the Dark @ Campus Theatre 2010 報告

「目を閉じると見える、しあわせがある」—11月13日、藤原洋記念ホールで行われたMovie in the Dark @ Campus Theatre (略称MID_ACT)2010には100名を超える人々が来場した。当日は松竹映画「しあわせ家族計画」の音声ガイド上映と、音声ガイドの普及促進に向けたパネルディスカッションを実施した(パネリスト:「しあわせ家族計画」阿部勉監督、青山学院大学総合文

化政策学部 内山隆教授、映画館「シネマ ジャック&ベティ」梶原俊幸支配人、観客代表 斉藤恵子シティアライツ映画祭実行委員長)。

画面の内容を副音声で説明する音声ガイドが広まれば、視覚障害者もより映画を楽しめる。そこで、ユニバーサルデザインラボ(代表:西村秀和教授)有志が実行委員会を結成した。阿部監督らの指導により、ガイド制作にも初挑戦。ラジオ

パーソナリティの経験を持つ櫻井智明君(修士課程1年)が洪い声で音声化し、好評を博した。

また、実行委員会では「1 Yen Movement」を提唱した。これは、映画鑑賞料金から1円を集め、年間100本の映画に音声ガイドをつけようというもの。Movieを冠したMovement(=Movement)でガイドの普及を狙う考え方に、パネリストからも賛同の声が得られた。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/10/22-09051.html>



MID_ACT2010の実現を支えた人々



音声ガイド・モニター風景。阿部勉監督(左から2番目)を囲むMID_ACT実行委員の面々



パネルディスカッションより。右から、阿部勉監督、内山隆教授、梶原俊幸支配人、斉藤恵子氏

TOPIC 7 全国生涯学習フォーラム高知大会(まなびピア高知2010) 地域再生フォーラム研究発表報告

2010年11月20日から22日まで、高知県で全国生涯学習フォーラムが開催され、地域再生フォーラムにてSDM研究科の村瀬博昭君(博士課程2年)が地域活性学会の優秀論文に選出されたCSA (Community Supported Agriculture) による地域活性化に関する研究内容を発表、農業振興を通じた地域再生のあり方について、地域住民の参画方法や国内における実施事例などの説明を行った。発表当日の22日は雨天であったにもかかわらず、会場には研

究者のほか地域住民や学生など、朝から多くの来場者が研究発表を聴くために訪れていた。同フォーラムでは他にスイス政府観光局日本・アジア支局長のRoger Zbinden氏が、ディスティネーション・マネジメントに関する研究発表を行った。

また、初日の20日に行われた総合開会式には、秋篠宮殿下・妃殿下のご臨席を賜り、尾崎正直高知県知事の開会挨拶でフォーラムが開催され、その後、高知県の伝統芸能やよさこい鳴子踊りなどが披露された。



村瀬博昭君(博士課程2年)発表の様子

TOPIC 8 経営・財務戦略論で企業訪問ツアー



定年制の無い企業の工場見学をする学生たち

2010年11月24日(水)、経営・財務戦略論の講義の一環で、愛知県豊橋市にある企業を訪れ、経営の現場に触れる機会を持った。訪れた企業は専用工作機械を製造する「西島株式会社

社」。定年制がなく、能力と意欲のある者は、年齢を問わず「一生現役」で働けるユニークな経営体制を取っている企業である。清家塾長も参加された昨年の訪問に続き2回目となった。

この会社では入社後、様々な部門を渡り歩きながら「多能工」として訓練され、まず会社全体の仕組みを知った上で、若いうちに管理職を経験させ、そこから高度な技能を持った専門職へと「昇進」していく。現場では、来年勤続60年を迎える社員も現役として元気に働き、後輩の育成に努めていらっしゃる様子を拝見した。

学生たちは帰路のバス中で、西島株式会社を

少子高齢化社会のひとつのソリューションとなるモデルとしてディスカッションを行い、経営のあり方を再考する良い機会を得た。



学生たちがお礼としてビデオレターを作成

TOPIC 9 カーディフ大学 Dr. R. Setchiによる特別講演



講演後の集合写真(中央がDr. Setchi)

SDM研究科訪問教員として来日(2010年11月22日～12月4日)したイギリスCardiff大学のDr. Rossi Setchiによる特別講演が11月24日に行われた。

講演タイトルは、In Search of Design Inspiration: A Semantic-based Retrieval in Support of Concept Designである。意味に応じた画像をWEB上で選択するシステムなど、

▶ http://www.sdm.keio.ac.jp/student/pdf/Setchi_Inspiration_Imagination_talk_abstract.pdf

デザイナーのインスピレーションを支援するツールについての紹介が行われた。また、講演後には活発な議論が行われた。

なお、Dr. SetchiとSDM教員の間では、教育・研究に関する情報交換が行われたほか、今後の教育・研究連携についての話し合いを鋭意進めることになった。

TOPIC 10 ALPS Workshop5 開催報告

2010年度農林中央金庫寄附講座デザインプロジェクトALPSの最終回である第5回ワークショップが11月19日、20日に開催された。

スタンフォード大学のKurt Beiter先生はスタンフォード大学での講義ME317の紹介を行い、MITのOlivier de Weck先生は、前回学生が飛ばした紙飛行機の飛行に関する統計結果の解説を行った。

講義の後、17の学生チームが最終発表を行い、「安全・安心なシステムデザイン」に関連する新しい

サービスや製品のアイデアを英語でスピーチした。

さらに最終日の午後には、エレベータピッチをおこなった。これは、エレベータでたまたま一緒になった社長や投資家に1分間で自分のアイデアを売り込むというもので、17チームの代表者17人が様々な工夫を凝らしてアイデアを売り込み、教員やプロポーザー企業の方々が評価を行った。

昨年度から、ALPS初年度(2008年度)に多大な貢献をしていただいた、スタンフォード大学の故 石井浩介教授を記念してISHII

AWARDを最優秀チームに贈呈しているが、今年度は、「Cycle K Bicycle Simulator」チームがISHII AWARDを獲得した。

最後になりましたが、ALPS2010はプロポーザー企業からテーマをご提案していただいたお陰で、大変具体的な成果を出すことができました。この報告文をかりて、プロポーザー企業の方々に深く御礼申し上げます。



最終発表の様子



展示されたパネル



エレベータピッチの様子



ISHII AWARDを獲得した「Cycle K Bicycle Simulator」チーム

TOPIC 11 第2回プロジェクトリーダー育成講座 開催報告



第2回プロジェクトリーダー育成講座受講生と講師陣の集合写真

産学協同でプロジェクトリーダーを育成しようと、今年で2回目を迎える「プロジェクトリーダー育成講座」が、11月から12月にかけて開かれた。今年協生館内の宿泊施設を活用し、1泊2日

の講義を前半、後半と2回に分けた合計4日間の合宿制として開催、2回の間には、戻った職場で宿題を实践し、後半の講座でプレゼンテーションを行うインタラクティブな学習形態を取った。

今回も遠くは関西から、また様々な業種から受講者が集まり、お互いのネットワーキングの場としても、この講座をご活用いただいた。宿泊日は夜11時までワークショップがあり、翌朝は7時半からスタートする過密スケジュールの中、4日間の講座を終えた受講者たちは、研究所長から修了証を手渡され、達成感と自信にあふれた満面の笑みを浮かべていた。

講座の合間に息抜きで行われた「プロマネ川柳大会」では、業界やこの講座での苦勞がにじみ出た傑作が続出、厳しさの中で楽しいひと時を過ごした。



講義中の高橋良之先生

TOPIC 12 保井教授のインタビューが雑誌「経済界」に掲載



保井俊之教授

保井俊之教授のスポーツ・インテリジェンス関係の論文に関するインタビューが、株式会社経済界発行の雑誌「経済界」に2010年11月2日号、11月16日号および11月30日号の3号にわたって掲載された。

出典は右記のとおり。

- 媒体名称：雑誌「経済界」
 - 発行時期：2010年11月2日号、11月16日号および11月30日号
 - 発行：(株) 経済界
 - 掲載場所：仮野忠男の「インテリジェンスの今を読み解く」
- ※著作権に関しては先方の許可を得ています。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2010/11/30-143015.html>

TOPIC 13 米国機械工学会 (ASME) 年次総会 参加報告

会員数12万人を持つアメリカ機械工学会 ASME (American Society of Mechanical Engineers) の年次総会が、11月中旬、カナダ・バンクーバー市で開催され、SDMから狼嘉彰委員長が参加をした。

今回の参加者は3000人を超え、会場となったのはバンクーバー市のウォーターフロント再開発地域に最近建設されたコンベンションセンターであった。同センターは、1000人規模の収容能力をもつ大ホールを4つ、100人

弱収容の中小会議場を50以上もち、国際空港から地下鉄で30分、周囲には多くのホテルやショッピング街が立ち並び利便性にも優れている場所に立地している。このようなセンターは、欧米では大都市のみならず中都市においても珍しくはないが、日本でこの規模の国際会議場を見つけるのは容易ではない。多数の人々が集まって協議するという場所に対する考え方に文化的・歴史的な背景の違いを感じた。

発表論文の内容から、機械工学がカバーす

る分野がますます多岐にわたり、情報・バイオ・ナノテクノロジーなどの関連が深まりつつある印象を受けた。また、エンジニアリング教育に関するセッションでは、能動的教育 (Active Learning) あるいは実習教育 (Hands-on Practices) の重要性を強調する発表が数多くあり、SDM研究科の特色である国際連携授業 ALPSやシステムズエンジニアリング実習の意義を再確認した次第である。

TOPIC 14 戦略的社会教育システムラボが経済産業省主催社会人基礎力グランプリに出場



発表者。左より、川合潤君、牧野由梨恵君、喜早清冬君、日比谷孟俊教授。

SDM研究所戦略的社会教育システムラボでは、「自律的行動力」育成プログラムの成果を、11月29日に経済産業省が主催した「社会人基礎力グランプリ」において発表した。日比谷孟俊教授がSDM研究科を簡単に紹介したあと、川合潤君 (修士課程2年)、牧野由梨恵君 (修士課程2年)、喜早清冬君 (修士課程1年) が発

表を行い、審査員との活発な議論を行った。

「自律的行動力」育成プログラムは、学生が自ら考え、目標を設定し、計画を策定し、実行する力を育成することを目的としている。具体的には、学部4年を卒業した新卒学生が研究活動を充実させ、かつ、就職活動もスムーズなることを目指している。学生はSDM研究科での講義やALPSで習得したシステム工学の手法を使って、自分自身をシステムデザイン・マネジメントしてゆく。これに対し、社会人学生を中心とするメンターが多面的な質問をおこない、学生の考えを促して「気づき」を与え、学生が自律的に課題に対して答えを見出すという活動の支援を行っている。

残念ながら決勝に進むことはできなかった

が、SDM研究科において学生による提案に基づきラボが発足、結果を残して発表に至ったことは大なる成果であり、今後のさらなる活動が期待される。当研究科のALPSにおいては、本年度から企業との連携を開始しているが、他大学 (工学系) からの発表には、企業からの具体的な要求の提示を受け、これを技術的に解析して新商品の開発のイメージを提案するという、工学的なデザイン・プロジェクト演習の紹介例もあり、このような教育が社会から求められていることを感じた。Sky highな視点から問題を捉えて問題を解決する手法を教育研究するという、SDMにおける教育内容の意義がますます高まっている。



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館

Tel : 045-564-2518 Fax : 045-562-3502 E-mail : sdm@info.keio.ac.jp

* Fax や E-mail での連絡の際には、お手数ですが Subject の先頭に「SDM 研究所」とお書きください。

お知らせ 今月のラボ紹介は、お休みします。